



○ 美人圖

畫

丁巳六

月 吳昌碩

庚子老口

紫

志摩戸羽住

蝙蝠子

淮南子云烏鵲填河成橋以度織女矣

家隆

付白下。阿ま。

乃ち多て乃氣氣とあるは

千載集

千載集 浪をさう松の下ねとくもてよくかひん
とふれあふものやうにさうて 後叙

後邪

○鵲

○鷓鴣 倭名云。唐韻云。鷓鴣二音交青鳥名也。辨色立成云。鷓伊微住海邊其鳴極喧者也。○多識篇云。鷓鴣或云

伊イ住ス海邊其鳴極喧者也

○多識篇云。鷦鷯或云。

主月

阿於左岐

志州戶羽佳

雪堂

磯^キ際乃^{ナニ}並^ニ松の^ミ間^ミ波もあぐ。潮^ホよりあやれさう華^{トリ}義^井
 の。曙^{アキラ}れを^ミと^ミに^ミ入^ミて^ミ傳^ミう。本^ミ地^ミ靈^ミ迹^ミも^ミね^ミわ^ミつ^ミう^ミる^ミ。神^ミ
 皇^ミも^ミあ^ミう^ミま^ミに^ミ傳^ミへ^ミて。菰^ミ筈^ミね^ミど^ミ満^ミち^ミく^ミも^ミ洗^ミひ^ミな^ミと
 船^ミ中^ミより^ミは^ミつ^ミう^ミふ^ミ謹^ミ啓^ミ也^ミ。あ^ミう^ミる^ミ人^ミ。

袍ウツマ 志ミ 鴨カモ 乃 一 知 乃

磯侍

○袍 ヒラカウ 公家乃着^ス。一袍^{ヒラカウ}。二位紫。五位六位。緑袍^{リヨクハウ}。
○名目抄云。位^イ袍^{ハウ}亦号^ス表衣^{ウラエ}。深紫^{フカイムラサキ}。浅紫^{アサムラサキ}。深緋^{フカイベニ}。浅緋^{アサベニ}。緑黄^{リヨクキナウ}。

○名目抄云。位袍井ハウ亦号ス表衣オモロイ。深紫フカムラサキ浅紫アサムラサキ深緋フカベニ浅緋アサベニ緑キナンド黄ワウ

隱岐
土佐
遠流
伊豫
越前
安藝
近流

件國々載延喜刑部式
神龜元年六月三日定云云

○黃帝內傳云。帝斬蚩尤。懸首軍門。以

搖立や孤帆のさき雲乃宿

獨幽

雲
けねもろをもろひやきん

秘教や院乃ゆゑく星録

一風

案ルニ。げ候。を。南院の海橋^{エラハシ}立乃。あ。ろ。ろ。や。ゆ。ゑ。ん。

飯炊く小舟乃少り星さえて

若州 故今

漢村乃ゆめりくくさるる

りあそ例亭乃左ふんて

同所 妙孫

松十目乃程我流うり狼乃海山目でふうろほのく
ゆれ眺望いふわりのく

○唐詩正音六岑參春夢詩云洞房昨夜春風起遙憶
美人湘江水枕上片時春夢中行盡江南數千里

はあそや龍乃灯あげて

同所 去留

玉葉集

はあそや花つらうり
海とみくさるる月うも 大江重

龍灯あそれうり流ふさうへり

江戸 從古

切戸文殊堂巽向寺號知恩寺額ハ延喜帝乃御震翰と
る傍の説○龍燈乃松あり云ぬ云地あり

○拾芥抄云知恩寺丹後九世戸天龍六齋日供燈明云

火うらねうらねみまゝる煙

同所 螢雪

東開千里乃驛路とほふ人猿屋乃曉やう乃飯炊く
く一炭して山部宿祢亦人望不盡山影と木枕より

乃さう○よきさうりつ けさ万葉集よるおろくみきそ

ま本抄 ぬうらねうらねに根をたててあふやうふ

卷之四

酸治諸疾下畧

又富士と蓬萊といふ

上聳頂主

江戸臥水

龜甲虫三百六十而

○昔張廣定

田子乃浦の朧をさるへー。○影古今集「風ふりひく霞
されりなり乃空ふさきてり果てさるわ家思ひぬ西乃

目^メ見^ミ乃^ノあ^アさ^サこの煙^{エン}あ^アさ^サ消^{シユ} 江戸 是伯

物^{モノ}お^オさ^サふ^フあ^アさ^サれ^レさ^サり^リや^ヤさ^サり^リ煙^{エン} 同 西路

田^タ子^コ乃^ノ浦^ウ平^ヘ沙^サと^トほ^ホい^イあ^アさ^サ 同 都鳥

ほ^ホう^ウ煙^{エン}の^ノ米^メバ^バあ^アさ^サる^ルと^ト静^{シユ}なり 安藝 單西

蓬菜。方丈。瀛洲。海中乃三嶋仙人の所居なり。事
林廣記。山海經なるふりてさる。長生乃境界めてさる
あるれ。それよりさる。年始乃にさる。と蓬菜
といひて説ひゆるる。

○列子云渤海東有五山焉。一曰岱輿。二曰員嶠。三
曰方壺。四曰瀛洲。五曰蓬萊。其上臺觀皆金玉也。其
上禽獸皆純縞珠玕之樹。皆叢生花實皆有滋味。食
之皆不老不死。所居之人皆仙聖之種。而五山之根
無所連著。常隨潮波上下。往來不得暫時焉。仙聖
之所於帝。帝恐流於西極。失群聖之居。乃命禺疆使
巨鼇十五舉首而戴之。迭爲三番。六萬歲一交焉。
○都良香神仙策云。三壺雲浮七萬里。之程分浪五
城霞峙。十二樓之構。排天矣。といつてねる。いふ。

云^{クモ}乃^ノち^チま^マと^ト園^{エン}成^{セイ}ひ^ヒさ^サる^ル 安藝 淨心

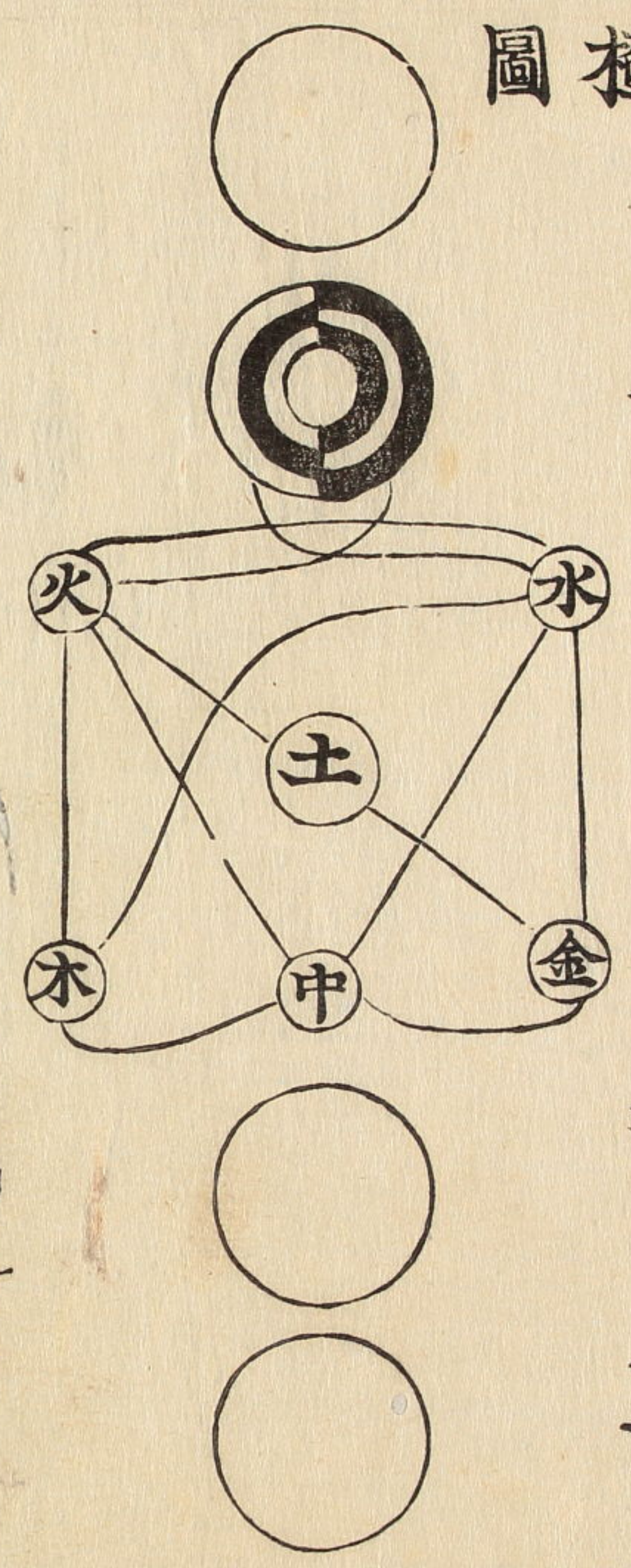
報^{ホウ}と^トあ^アへ^ヘ。う^ウさ^サへ^ヘい^イか^カふ^フ流^{リウ}は^ハら^ラう^ウ。う^ウさ^サへ^ヘう^ウね^ネむ^ムり
と^トう^ウさ^サへ^ヘう^ウね^ネむ^ムり。あ^アへ^ヘと^トう^ウさ^サへ^ヘね^ネむ^ムり。

一

太極圖

坤道成女

乾道成男



友知

擗刑
一區

○流星兼名苑云流星一名奔星倭名與八比保之

○
○

一星天九秋自埋光景落江流是公至樂山中物年
與裴翁似暗投○まゝに星乃墮くるゝとありたりまゝに
史記始皇本紀左傳るゝふ記なり

帆風やゝゆるり波雲をう送る

河内 一山

江村の市人よ對し時珍のいゝゝ。蚌與蛤同類
而異形長者通曰蚌圓者通曰蛤故蚌從中蛤從各
皆象形也○蛤蜊 蛤類之利於人者故名○多識
篇 波末久里 ○禮記九月令爵入大水爲蛤云云
○文昌雜錄云禮部侍郎李常ト云フ人ノ物語ニ云ク少
監孫莘老ノ莊居今高郵湖ノ水邊ニ在リ嘗テ一タ空
陰テ月モ無シ星ノ影モ見エサル晦キ夜ニ莊居ノ人報ニ云ク
湖ノ中ニ蚌ノ珠浮テ見ユト李常以下數人同ク水際ニ

至リテ見ル微シキ光隱々トシテ俄ニ大ナル光リ有テ月ノ
出タルカ如ク霧間ニ映キテ人ノ顔互ニ見ユ忽チ蚌蛤有テ
水面ニ見ユ大サ苔ノ如シ片ノ殼ヲ舟トシ片ハ帆ヲ張リ
タル如ク押立テ其ノ中カ光明晝ノゴトク南ニ向テ走ルニ
疾キコト風ノ如シ旁ニ繫ギタル小舟ノ者トモ競テ逐カケ
シ終ニ及バズ杳ニ遠サカリテ及ニ水底ニ沈ムト云フ
○皮日休酒病偶作云 鬱林步障晝遮明一炷濃
香養病醒何事晚來還飲食隔牆聞賣蛤蜊聲

紫 ちやあつ鐘と帆りあつて

河内 江柳

○古今集 秋風あつと帆あつてうゝゝあつ
乃ととととるゝとありゝゝ けあ乃ととととたあ
てまゝ乃鐘のあつと帆あつてまゝほのくぬれゝゝ

○廬山外集云同焦錄事晚次霄川

上書付るに

竊乃子開守より家法見習

江戶夢朋

南をわとうまづ漫くうて。やえ山ノエ後より。山
陰は寺有り。淺見と号すと。葱園といふ事あるひに
妙心寺に屬ともなり。淺見園をいふ此門前より
開倉のほとり又布きとともなりあり。むーせとあり
布とりたるがほもりてるよりたるとなり。

長明海に張ふところなり。付白れあつて。彼函谷^{ハツタク}離乃
むしとぞいぢる。鶏乃夢に旅り乃心とをぐさめ
たすくさる。○孟嘗^{ミョウチャウ}君といひ人。秦王^{シンワ}よやそ
りけ。おふゆきぬくのづれ。はけ函谷乃冥。鶏の
あゝぬきざり人を誅さば。孟君^{ミョウキミ}が三千の客^{カク}の中に。
鶏乃まひとよくとも者あり。あらが鶏乃まひと
くるふまことの鶏も鳴くねむいまでおつさる。冥
乃戸を開てとく。くるときじまず史記田文傳に見
えんが圓れあへあつて入てゆるか。よ。○玉吟
それとあさちをもころつとぎめくり清見つせさる
浪乃あまがの 家隆

煮
 湯ユ
 煮ジ
 燻ニヒ
 漁ギョウ

丹易散木

孤枕

うすく帯小煙乃我ちる

丹州
正矩

海老丸 肥望テウダウ ぬに 石 ころ

醫サキ乃羽ハ乃斗ト乃ナ乃ノ乃ノ乃ノ乃ノ

丹州
正音

○春秋運斗樞云。北斗^{ホクト}七星。第一^イ天樞^{テンシュ}。第二^ニ旋^{セン}爲魁^{スミイ}。第五^ゴ至^シ第七^{シチ}爲標^{ヒョウ}。標^{ヒョウ}第三^{サン}機^キ。第四^{ヨウ}權^{ケン}。第五^ゴ衡^{コウ}。第六^{ロク}開^{カイ}。陽^{ヨウ}第七^{シチ}搖光^{ヤウコウ}。第一^イ至^シ四^シ合^{カフ}爲斗^ト。居陰^ニ布陽^ハ。故稱^ス北^{ホクト}矣^{ナリ}。○蠡海集云。北斗^{ホクト}位^イ北^{ホクト}而得^テ七^{シチ}爲火^カ之成數^{ナリ}。南斗^{ナント}位^イ南^{ナン}而得^テ六^{ロク}爲水^{スイ}之成數^{ナリ}。此乃陰陽精神交感之義^{ナリ}也^{ナリ}。

○文選云。南有箕_斗。北有斗_箕。云云。

○事物紀原云。馬摠通曆云。地皇氏定星辰。後漢天

文志注云。黃帝分星次。凡中外官常明者百二十四。可名者三百二十。微星萬一千五百二十。黃帝創制之太略也。禮記乃云。帝嚳能序星辰。蓋地皇氏始定爲星辰。黃帝又名之。至帝嚳而序也矣。

窮乃息イキハ至ルウキ潮ウキカエリウキ

齋戸羽
木運

鰐○倭名ニ云似鱉有四足。喙長三尺。甚利齒。虎及木
鹿渡水。鰐擊之。皆中斷矣。

○宇治拾遺云。むろくーの人あさひーふ。ミラキ
うろろろろが。あさひーをそくかつるふ。ぶちぬよそいて。
かひおねえのいれんも。あれあつたふ。毎とど
ろてあそびむ。そのやどかひのりきつたれ。かなぐみふ
ねえ。うつぎて海とそれむ。ぶ乃親うつりたるもうにキシ

乃。三四十丈^三よりわきわきうへよ。虎うづらまうぬえ
 物とうへぬ。そよ新むよりたりたり。ま。お。人。こ。よ。け
 て。あ。い。む。の。い。そ。ま。う。の。せ。て。ま。い。に。ろ。と。ま。
 へ。こ。ま。て。わ。い。と。ま。い。ま。い。虎とまうたりて。毎
 の。う。ん。と。ま。ま。あ。と。く。い。づ。虎。わ。ち。う。ろ。ほ。の。ま
 くれ。じ。よ。一。丈。よりとえとまうは。こ。で。海。お。ち。入。ぬ。
 わ。い。と。ま。て。い。そ。ま。て。ゆ。く。ま。い。の。虎。よ。目。と。け
 て。ま。う。ま。い。は。う。り。ま。い。虎。う。ま。り。い。で。ま。ぬ。と。ま。
 へ。う。ま。い。の。が。り。て。け。い。ま。い。あ。う。う。の。が。う
 と。ま。ぬ。む。ひ。う。ろ。う。あ。と。ひ。ま。う。う。に。食。ま。れ。て。
 血。あ。も。ま。い。ひ。ま。い。ま。い。ま。い。と。ま。う。ほ。い。ま。
 ま。い。う。あ。と。あ。ひ。て。ひ。ま。い。ま。い。う。ま。い。う。ま。い。
 う。ま。い。ま。い。仲。乃。こ。より。虎。乃。こ。ま。い。て。う
 と。ま。い。ま。い。虎。た。れ。ま。い。あ。と。ま。い。ま。い。の。か。ら。ま

[illegible]

田舎酒をうけあひ客入ハラウトふ

似醉

塩竈乃よりかきふ馬^{ニテ}刀かく人乃縛うちしやれ。

身上有肉閩粵人多採鮮者羹醋食之味如木母
○韓退之所謂章舉馬甲柱鬪以怪自呈者也石距
亦其類身小而足長入鹽燒食極美氣味同章煎
○多識篇云章魚今案多古異名章舉

○石距阿志那加多古

かづりふはせんそえん綱代人 志州戸羽 賦枕子

綱代もろ魚とてあやも綱代乃もろいひも水とてさ
中とあきてさやもれあやもろ綱代乃麻をつり
て箋紙とて布とてさやもろ箋紙とてり
あやもろ綱代乃もろ江列國上は乃あやもろ
もろもろ綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ
○檣船奏云十月ふりてあやもろ乃もろ綱代乃もろ

綱代とてそけいもろ綱代乃もろ綱代乃もろ

○續古今考 る家

綱代もろ綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ

○順徳院御集

綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ

○堀河百首 基佐

綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ

綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ綱代乃もろ

○智度論云一切寶中命爲第一諸罪中殺生罪爲
第一諸善中不殺生戒爲第一矣○地持論云殺生
罪能冷衆生墮三惡道生人中得二種果報一短命

罪能冷衆生墮三惡道生人中得二種果報一短命

誰代卷卅

志効戸羽

峒嵐子

志州

志州
孫侍

志州戶羽

秋萱

餅やせ。豆^よ磨^フま^いれ。尾^{オノミチ}道^{ミチ}酒^{サケ}もいそ。さうめあうふ。安^{やす}

紫

まづせん。翠帳紅園乃ゆづりみたるもさき公卿乃
れは^{コト}あはれどもうたふ^{コト}わいのあはれもく^{コト}一^{コト}生れ歎^{コト}
おも。一^{コト}おもわる^{コト}あはれや。あはれもく^{コト}乃^{コト}よは
あはれに世をほくも。あはれいもあはれ乃^{コト}藻屑^モく^{コト}あはれ
なれども。猿蓑^{サルヒビ}乃^{コト}かほくもあはれ。あはれなれ^{コト}都の
人と。あはれく^{コト}あはれく^{コト}あはれく^{コト}あはれく^{コト}あはれく^{コト}
あはれく^{コト}あはれく^{コト}あはれく^{コト}あはれく^{コト}あはれく^{コト}

志州

秋袂

○白氏文集云。千株松下雙峯寺。一葉舟中萬里身。
けむれあまうげよそちてゐるうゝやと書付ゆる
○袋草紙云。惠心僧都ハ。和あそね言侍落るりと云。
うゝと誑いざりうゝと。惠心院うゝと。あまぼねふ湖を眺
らうゝあまふ。澳うりうゝのゆくを思ふあまふ人漕舟く

上津谷
松雲

其半氣則鳴矣

はりやれくぬふよく
勢中上やさん

戸霧れき福ととて中にもあり
 浪あつたう相あうとて戸 係

源俊平

曰木芍

○周茂叔愛蓮說云

富貴花と名づく

○艸山元政旅窻見牡丹詩云

塵^チ裡^ニ偷^テ閑^ヲ聊^カ寓^ス意^ヲ

花王富貴不妨貧

有犬豕

三

○倭名ふ二十葉と訓する牡丹乃園落二十日なり
あつてそはるの洛陽城中乃人々牡丹のやうに花と
あつて駭まうとつと

○白氏文集新樂府云牡丹芳牡丹芳黃金紫綻紅
玉房千片赤英霞爛爛百枝絳艷燈煌煌照地初開
錦繡段當風不結蘭麝囊仙人琪樹白無色玉母桃
花小不香宿露輕盈汎紫艷朝陽照耀生紅光紅紫
二色間淺深向背萬態隨乍見映葉多情隱羞面臥
叢無力含醉粧佐嬌笑容疑掩口疑思怨人如斷腸
穠姿貴彩信奇絕雜卉亂花無比方石竹金錢何細
碎芙蓉芍藥苦尋常遂使王公與卿士遊花冠蓋日
相望庫車軟輦貴公主香衫細馬豪家郎衛公宅靜
閉東院西明寺深開北廊戲蝶雙舞看人久殘鶯一

聲春日長共愁日照芳難住仍張帷幕垂陰涼花開
花落二十日一城之人皆若狂三代已還文勝質人
心重華不重實重華直至牡丹芳其來有漸非今日
元和天子憂農桑卹下勳天天降祥去歲嘉禾生九
穗田中寂寞無人至今瑞麥分兩岐君心獨喜無
人知無人知可歎息我願暫求造化力減却牡丹妖
艷色少廻卿士愛花心同似吾君憂稼穡矣

○天寶遺事曰初有木芍藥植於沉香亭前其花丁
日忽開一枝兩頭朝則深紅午則淡碧暮則深黃夜
則粉白晝夜之內香艷各異帝謂左右曰此花木之
妖不足訝之矣

朱
罪あてて女調とほてて

風食

談夢

7

中藻飼馬故云神馬藻也矣

○重之家集云、こゆごとく入魂のまじりそ名のこゝろえ

紫

神

室乃女に巧むげと云 都舟 如竹

物と云ふ。故に云

[illegible]

やまねく月。と。の。ま。で。二。三。通。づ。り。い。ひ。て。か。ゐ
 罪。つ。さ。り。に。あ。つ。た。ま。ふ。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え
 ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も。か。も。い。で。す。い。ひ。あ。ひ。あ。ふ。あ。ふ。あ
 ち。り。の。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 思。ふ。で。あ。つ。た。ま。ふ。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 ま。ふ。○。私。に。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 乃。り。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 ○。黒。谷。上。人。傳。云。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 小。船。一。艘。ち。り。の。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 う。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も。か。も。い。で。す。い。ひ。あ。ひ。あ。ふ。あ。ふ。あ
 世。と。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 才。と。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 た。と。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 ま。ふ。と。も。か。も。い。で。す。い。ひ。あ。ひ。あ。ふ。あ。ふ。あ

閑坐たり煙草乃をかりあはれ

ノ軒

ぬか。の。う。さ。れ。た。煙。草。乃。を。かり。あ。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 ち。り。の。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 と。と。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 乃。り。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 罪。人。乃。た。め。に。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 ち。り。の。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 こ。の。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も
 ち。り。の。い。は。れ。し。侍。人。一。け。を。え。ゆ。あ。も。く。る。ま。ふ。と。も

○ 新古今集巻第二 閑坐たり煙草乃をかりあはれし侍人

五須弥外有須弥
六月雪飛寒徹骨

呼作土峯吁是誰
臂開芥子欲藏之

○萬葉集赤人寄に

○家老の峯にうらぐち雪の十五日の清ぬれを雪零り
○長ぬ海を記え 同くうらぐちのうらぐちのうらぐち
○紫 ちうらぐちのうらぐちのうらぐち

出づち食ありびうらぐちかぜめし 松髯

後より真見と仰じて。うらぐち食とむ。海をれ諸館
あるべし。○信馬集云。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
うらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
ありびうらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
一系は蘭師にほむ。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
かへうらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち

ちうらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
くどかぞうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
あるべし。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち

海をうらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち 長吉

竹興うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち 露芝

一佛桑乃峯あり。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
王城の鬼門とあり。麓に止觀の海水湧く。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
寂然乃月明のうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
うらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち
一月八日ふ。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち。うらぐちのうらぐち

事とあるを登山乃人々算もはくさねども此僕
をさうへき乃なり物よりぬえり乃らうひとあら
ん。後神の力とて。さうくさうも多し

○比叡山 伊井諾伊井冊立^{タテ}于天浮橋上^ニ以^テ天瓊
矛^{タマハ}探^{サシ}滄海^{ソウカイ}其矛鋒^{ハヤテ}滴^{タリ}潮凝^{ユキ}爲^ス一島名曰^ク破馭盧嶋^{ハコヨロシマ}

世之解神書者多設說曰此島者近江比睿山也
一說大和金剛山一說山城如意山一說淡路州
西南隅小島○傳教大師云破馭盧島者比叡山
是也神社考

○延暦十一年十一月十一日桓武天皇信濃大師はらるを
ひらけり。目^メ校^{カウ}乃名とありたて。比叡山と号し。三
宮由^ユて九院の仙邸とて。城ハ三宮地鎮^{チジン}して九宮の
皇居とてかまへり。鎮護^{チンゴ}國家^{コクカ}ハ^ニあり。け師代^{シロヨ}なりといへり

○新古今集云 比叡山中堂遠^{トホ}乃時信濃大師よりせ
たりつる

阿耨多羅三藐三菩提乃佛より我より秘^ヒに真^{マコト}ありせり
○新拾遺集 比叡山の中堂よりめて常盤よりそ
かきあひつる阿 信教大師

阿耨多羅三藐三菩提乃佛より我より秘^ヒに真^{マコト}ありせり
○新勅撰集 目吉社^{メキヤ}遙^{トホ}乃ありとてなる 是乃
比叡乃浦よりふれはるるありとてなり

○道春題比叡山詩云
良嶽從來守紫宸 先王立^テ作國家鎮
雲波五色三津浦 星斗千年七社神
湖水朦朧空得月 山櫻寂寞自過春
好風景非無意 吾亦^タ東西南北人

一水

あまのこ

やふれ 沙也 陽之上

才をきく

笑堅

○草庵集弦泊とてふ

高乃善やいん 梅いん ぬいん ぬいん ぬいん

○古伝日記云 十回ありてふくむを却て空津をさふ。人
とれまゝねむ。海乃けりやうもてと。多々月成りて
そあひらう。さえちりう。かゝれあひこよ。れねあきて
あわらひき。のちもして登ふさうねと。 傳はれ
え何となく出付

市川
政顯

○月清集。菰泊千尋。あのをきたおてふいとみんさよふ
るはた乃うきよは物やわいと 玉葉集二入

燕羨

○東海乃能云小田原乃本坂あゝまゝの馬より
下より。ちろ水坂うゝまゝとちよゝより

○羅山子題箱根山詩云

龍巻

長坂脩途不可攀 惟天設險甲東關

回頭木末待吾僕 佇足湖邊濯容顏

鯨背浪高伊豆島 馬蹄雲起管根山

相逢盡道歸耕事 歲歲年年幾往還

いさうたうのあむおねとあめをみるにたれぞ

入唐乃在るをいさねとつたふ 幸春

入唐波夫ちうくへい信乃中よあまの侍る事法

書ふてゆれども誰かちうくへいよきやうにやうれ

因^チいさうあまの侍るを

○古今集羈旅 ちうくへい月夜をみるに

あまのあまのけい^チいさうくへい月夜をみるに

○信^チいさうくへい^チ仲唐とくへい^チにちうくへい

安倍仲唐

はうくへいけあまのけい^チいさうくへい

くへい^チいさうくへい^チ使^チくへい^チくへい^チくへい^チ

あまのけい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

かのあまのけい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

わい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

○宇治拾遺云いさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

て^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

仏法とほろりくへい^チ堂塔とくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

あまのけい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

くへい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

さう^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

て^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

くへい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

くへい^チいさうくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チくへい^チ

龍巻

三

驛なく万々ハ忘や殊家月

生年九才
五百九

○格物論云烏鴉別名有リ小而多群腹下白者名ニ鴉
鳥ト反哺ス其母者名ニ慈鳥ト○張華禽經云慈鳥孝鳥長ニ
則反哺ス其母○晉成公綏鳥賦序云夫鳥之爲瑞久ニ

○張繼楓橋夜泊詩云

月落烏啼霜滿天

江楓漁火對愁眠

姑蘇城外寒山寺

夜半鐘聲到客船

紫

首のミミシと云ふ牙七子海草

正次

辺^{ヘリ}に^ナ乃^ハ々^ハ 巖^{イハ}とて。もや草を付くことの象の月うんとて
 の。蟻^{アリ}乃^ハちるまごまかとりつるすういさうなれど。首^{カビ}も草の
 盾^{カサ}れひともごま。誰^{タレ}ともやの影^{カゲ}。い文^{フミ}慍^{ウミ}乃^ハは時^{トキ}。罪^{ツミ}ふあつて
 はたようつさねね。中^{ナカ}納^{ノウ}をれまへ。開^{ヒラ}吹^{フク}らぬ。浦^{ウラ}風^{カゼ}よ。おききと

青

いわさく仙乃親も。ちよつと愛乃。為龜江の作なり。い
和奇乃。煙よりく。和め。かくされまふまり。サニ員れ
奇とあふ。署なり。

傳る終りててかこいし一和書

榮春

○羅浮子ある記云。別後乃。墓を江の池田。駿河乃
多。越。いづも。長老。おきたり。く。む。く。は。還。乃。氏。支。
松乃。少年。鞠。と。口。は。あ。ど。千。金。多。い。と。蜀。の。不
され。彼。江。の。津。も。い。く。わ。り。侍。む。知。終。の。な。臣
乃。多。き。れ。湯。言。て。け。池。田。乃。宿。れ。む。と。あ。う。く。侍。ふ。と
世。か。く。ま。う。今。い。け。宿。天。龍。の。は。乃。あ。の。く。く。形。は。り
乃。り。く。く。と。づ。く。く。小。民。と。も。く。り。と。あ。り。く。居。侍。り。く。
大。天。龍。小。と。終。と。て。二。の。あ。り。ま。う。が。新。田。乃。中。お。た。る。
氏。と。我。い。ま。け。く。乃。わ。く。ま。う。く。侍。ふ。く。と。指。乃。松。の。ま。り

と。う。く。と。あ。れ。く。と。う。く。と。あ。く。乃。事。な。り。江。都。乃。經。捷。乃
あ。け。の。や。濱。乃。く。ま。う。細。乃。と。小。天。龍。乃。ま。り。と
と。う。く。の。ま。り

池田驛長本倡家

處子嬋娟天下誇

腰似楚王宮裏柳

面如巫女廟前花

古今不盡洪河水

淵瀬相移兩岸沙

治亂興亡非我事

征鞍暫憩且嘗茶

○新古今云 停勢よりりくく。い。ふ。く。あ。り

往麻山。い。ま。と。く。ふ。ね。り。控。て。い。ふ。き。の。あ。り。ま。り。ん

○鈴虫まき云 女に宮さの

青

ね。わ。く。乃。終。と。く。と。く。の。く。と。う。り。と。て。う。た。終。を。乃。終

終と終るれ翅あふふふりり也

訥子

音義卷二

卷之四

盧茲二音。日本紀
私記云。志乃豆止利

帝胡二
僉云宇

二音 春鋤

低昂テウカウして

小雅之春鋤

非誰得知矣

一道

卷之十二

仲正

○玉葉集 庭をせよひさしきもわづりろ人乃たら
ぬふくや子代乃とつま 信光

○王介甫元日詩云

爆竹聲中一歲除 春風送暖入屠蘇

千門萬戶曠曠日 總把新桃換舊符

○門松 世流同春を松とふ年とむり竹を若代と
りうもわづれも年乃始のいそひすまたとゆるへーと
○錦繡萬花谷云董一勛答問歲首祝折松枝男七
女二以為藥飲矣○歲時記云正月一日帖畫雞戶
上縣葦索於其上挿符於旁百鬼畏之矣○簋簋內
傳云肇年門松巨且墓驗木也矣と云くゆれとも年
始乃祝るれと世に同言 一条禪園 乃後世のいづれと云や
○文庫抄のうづゑ乃花の紅と松と云つゝ民乃戸とめ

ふ世と云ふる 光の寺へる

○堀河後百首 川松枝のともをさつゝそのれと云
わづれと云ふやありぬん

○淡路 神代卷云二神合為交婦以淡路洲為胞
生大日本豊秋津洲矣○義解云昔陽神因此國曰
浦安國也天照太神勅云葦原瑞穂國者我子孫可
為主之地也矣○かゝる乃名代考ふと凡そわづれと云
國二倭面國三倭人國四野馬臺國五姬氏國六扶
桑國七君子國八豊葦原千五百秋之瑞穂國九豊
秋津洲十浦安國十一細戈千足國十二磯輪上秀
真國十三玉垣内國といふ 日本紀纂疏二
委見
○玉葉集 庭をせよひさしきもわづりろ人乃たら
ぬふくや子代乃とつま 信光

すハナリ。たのめすいふぬほくやありえん
いせうハあつたよかりあつたよかり富土乃たふも
あつたよかり

○十の和目記ニ云 安嘉門院 富土乃の城をわすれも烟もたふも。

むく父乃おほふうそつれさういふふなるもろくまれハ
とよういふとつあつた乃あつたさういふうた。富土乃
うつ乃とあつた。あつたさういふふさういふ物城のつ乃
よりうさういふとつた。さういふさういふ人さういふ
たがあつたさういふさういふ富土乃の城乃あつたさういふ

城乃あつたさういふむら

信生

夢があつた乃城乃あつたさういふ水藻乃あつたさういふ浪乃いふ
強強乃海乃あつたの松乃あつたさういふ水乃あつたさういふみまれ
音にさういふ乃あつたさういふ水乃あつたさういふ松乃あつたさういふ

龍乃さういふやかりさういふ下乃強月の歌乃いふをれ
どほくやいふや。龍乃さういふさういふは乃さういふ。強乃
城乃あつたさういふさういふいふ。年乃さういふやかり
さういふ。松乃あつた乃城乃さういふさういふさういふ
三乃乃強風乃さういふさういふさういふ。さういふ。山泉流と
りふ人の付さういふさういふ。又湖水乃地乃さういふさういふ
さういふ。強乃さういふさういふ。○朴長老題。矢橋歸帆詩云

釣竿手熟白頭翁

辛苦客船西又東

幾度風帆歸去後

呂公榮達一盃中

驛館

とやういふ驛乃あつたさういふ

了夢

○驛館 凡國野之道十里。有廬廬。有飲食三十里。
有宿宿。有路室。路室。有委五十里。有市市。有候館。候

館有積今二十里馬舖有歇馬亭即路室之遺事也
 六十里有驛驛有餼給即候館之遺事也漢自鄭莊
 置驛以迎送賓客後世亭傳有驛名通典曰唐三十
 里置一驛其非通途大路則曰館由是通謂之館驛
 雖事起於周名出於漢矣事物紀原
 ○白氏文集送劉郎中赴任蘇州詩云水驛路穿兒
 店月花船棹入女湖春矣
 ○まお抄云いほくういたいきふれさぬんれとい
 あう乃むもやくや室家

銀

驛乃羽ふきのうみく月借と

可理

あそれ都よりせし時をま書杉原えほのうことと
 めくともうわむかうせいのう乃紙とてたんきふ

筆紙あそせし人あふと配乃かみさ形や
 ぬくへまげまむ時と御深ふかふ湯の鳥羽拾い垂て
 そくうふのうさでた乃もよりあう商人をねてはの
 けりわ乃人のととくそくうそほふれさう
 ○奥義抄云敏達天皇乃時。の藤の表と為乃羽ふ書て
 をく。と目ふむ人。王居ふとの人かその羽と藤
 て。わくさ乃まぬあそくさふ。まうすうつりさく
 見くうとと日本紀抄又色系集巻二見しととさうさくして一を
 ほくふふとと

青

○月借 江泌少貧夜讀書隨月光斜升屋矣活法見

浦のる信もめうほとほまく又 雲彩

○浮塵夢とほれくあうほくうく乃ぬを結つてま
 をあそひめくさくさくさくかの後さくま

珠^{ナク}泣^{ナク}あそや月乃^{ナク}あそ

哥和

病者乃厚賦一むるを以て

倭隨

連々嘯々也。わたりいひ伝へり。或ハ笈ふ。と言解すべし。但
救ふ金く人と異なり。但赤裸なるものとす。每人すまじ
羅を唱へ。むね撃て。國をにらふ。ちり誇る。復多と。ち
りて。ちよ幾ひと。海へ入る。あちちと人乃いひく。是
を海人といふ。を極所の室け海をよ。好こ
海に雲乃厚成一む。雲はきて
倭隨

○は拾遺集よりと墨ふくむ書と見ゆかれをぬれ
空しくかつくりこみ

○白氏文集第二
十
曰江樓晚眺景物鮮奇吟翫成篇寄
水部張員外詩云

澹煙疎雨間斜陽
蜃散雲收破樓閣
風翻白浪花千片
江色鮮明海氣涼
虹殘水照斷橋梁
鴈照青天字一行

江色鮮明海氣涼
虹殘水照斷橋梁
鴈照青天字一行

鴈照青天字一行

好著丹青圖寫取

題詩寄與水曹郎矣

○支本抄

初風やあゝいゝらんるわ乃柱となそ 唱とろ小を留置る 俊成

^{カホ} 鑿^{カホ} たり 綯^{カホ} む^{カホ} へ^{カホ} さ^{カホ} ん^{カホ} へ^{カホ} 酒^{サカ} 代^{カホ} たり

秀政

けむれあつた後、我素（こころ）に雄略（ゆうりやく）天皇（てんかう）乃（すなは）ち時（とき）を丹波（たんぱ）と云（い）ふ海部（かいぶ）
水（みづ）江（え）乃（すなは）ち浦嶋（うらしま）づみとのふ者（もの）を釣（つ）く。くちりまて、或（ある）はゆきたり
一時（ひととき）。海部（かいぶ）の女（を）をわひく。主婦（しゅし）乃（すなは）ち驚（おどろ）きとあはく。うむ。則（すなは）ち
きこふ。うむ。乃（すなは）ち宮（みや）ふ。きこふ。り。後（のち）く。の樂（たの）みと格（か）け。ほく。に
左（ひだり）乃（すなは）ち父母（ふぼ）と云（い）く。く。を。よ。あ。ろ。ろ。や。わ。り。ま。ん。あ。ろ。ろ。く
いと。む。ね。女（を）よ。あ。ひ。く。え。け。女（を）村（むら）た。る。弟（あに）と。さ。づ。き。く。二（ふた）
度（たび）我（われ）り。く。あ。ろ。ろ。ん。と。思（おも）ひ。ゆ。め。く。け。我（われ）我（われ）開（ひら）か。あ。ろ。ろ。と

○牙延乃るの証云。江よりといふふはく。あやう。甚な東門
といふものなり。あやう。牙延乃るといせう。稱もてあふさ
る。て。置い。て。たふ。う。まん。な。とい。と。どの。北。酒。の。ま。ひ。え
る。あ。う。ち。う。さ。る。感。謝。せ。う。と。て。ま。祖。乃。親。筆。乃。野。田。に
を。く。る。は。い。と。な。ま。う。と。あ。る。と。さ。う。で。たり。え。ん。あ。う。て
び。ね。づ。き。て。母。乃。こ。か。さ。い。れ。く。ち。う。ま。せ。さ。の。せ。人。と
い。ま。い。て。う。に。ゆ。い。さ。ら。あ。う。い。さ。る。あ。う。い。の。を。あ。ま。れ
る。あ。と。て。た。い。う。は。と。さ。う。う。午。乃。時。さ。う。り。あ。う。い。と。あ
う。い。や。さ。め。て。ほ。ん。ま。ふ。う。い。れ。は。ん。や。う。あ。う。と。う。る

紫
一 髪ふみぬのやうく入浴せうとせうろと寝ぬちを乃枕に
たふ乃浦浦と鏡より贅かきさるる 榎川

〇重之家集云「官乃浦はあもれあそふ^{カサ}窟乃ちと
 下りけそとふもん」
 〇第浦 和歌といふ名不集
 あへ未勅と云々
 〇礼記内則云子事父母^{ツレ}雞初鳴^ニ咸^ミ
 盥漱^テ櫛^シ綖^ニ笄^ヲ總^ニ拂^シ髦^ヲ也^ハ上^ニ居^ニと^ハ浴^スれ^ハ鏡^ヲを^シう^ニさ^レれ

一

かりさくく懐妊すまてうめさ

松白

懐炉ハ。鋼テツをく作り。炭とよく持ッぬふくくして。わき
 そのふけを見懐アトに入くとけむ。おろり登上るまでも炭氣ツツキ
 ありき。膚ハダとあてめ。おろりして。疝氣センキ乃ハさうのや
 ときくにより。温ユツる炭もちあうもあれど。そまより火カ乃
 かきたちまよりゆるうや。終ヨモス末カフの風吹く。おじとぶ菜
 乃ハさくくく。括カキ電ミとして。自ジ減ヅくもあうく。油アの磯ヤ
 乃ハ。昆布ヒロメ乃ハ補ツト固コ。紫菜ムサウリの寝衣ヨギなりて。あ
 れるび。さふ。郊カフの石イシあひく。き氣キはねツカえ易ヤスき
 人ヒト。さうく用ヨウとあう。身ミをぬくや

八
蓮ハスあろりともたけのうて

洗柳

唐岑の著る餘波をく晴さくほろりと明らう海面
浪はひろく浮桶の上はれちゆくありや。臨乃雨も
康とうづにみんよとあられあるに。本覺乃山れき松の
待も菩薩六度と風はほへ。浪を四諦ノ法とけふ志那乃
荷^カ糸^イ了^{リョウ}一のり^{カク}難^{ナン}也。經乃題目と鳴る。蓮はなゆべ却人
よ。如^ヨ度^ド得^{トク}船^{セン}乃ことわりと言^{イハ}えずるさざめのお飛きたるうづ
雨乃蓮の常るねむなりけりこころにや。あまんと龍^{リウ}よ

○蓮類
倭名曰爾雅云荷葉藻

術音同 藻音渠

郭璞注

云芙蓉

容音
江東呼爲荷也

○藕其本薷

音蜜和名
波知湏乃

比波
注云莖下白菊

弱音在泥中者也

○茄參名其莖茄八加音

○蓮 其葉蓮 反胡歌 注云蓮亦荷字也

兼名苑注云

○蓮 其子蓮音連其中的 注云蓮謂房也的謂蓮

音舞和名
木波知須
地蓮華

○李太白採蓮曲云。若耶溪傍採蓮女。笑隔荷花共
人語。日照新粧水底明。風飄香袖空中舉。岸上誰家
遊冶郎。三三五五映垂楊。紫騮嘶入落花去。見此躊躇
踏空斷腸矣。

踏空斷腸矣

○ 史本抄 夏うつさつりは乃ちもとら事にくり深ふ
うへへそすぐろぬまびと 長家抄

○林子中吳興詩云。遶郭^ニ芙蓉^ヲ拍岸^ス平^ニ華^ヲ深^ニ蕩^ス槳^ヲ不

聞聲萬家笑語。荷華裏。知是人間極樂城矣。

○白氏文集採蓮曲云。菱葉縈波。荷颭風。荷花深處。小船通。逢即欲。語低頭笑。碧玉搔頭落水中。矣。

○蕪東坡西湖詩云。畢竟西湖六月中。風光不與四時同。カウ接天蓮葉無窮碧。コト映日荷花別樣紅。ナ矣

○周茂叔愛蓮說云。予獨愛蓮之出於泥而不染。濯
清漣不妖。中通外直。不蔓不枝。香遠益清。亭亭淨植。
可遠觀而不可褻玩矣。

○高野大師云。蛙蟆登荷葉。毗盧成道遮眼。蟬鳴黃葉。遮那說法滿耳矣。

○芬陀利華 フンダリハ 此は白蓮華といふ。花乃中ナカの最勝サイショウ乃
妙色ミョウシキ。底多ソコタ乃中ナカとあり。天テンはあを蛇ヘビとす。此乃コノ梅
樹ノキのこゝ。水陸スイリクの花乃中ナカは宿ヤトも勝マタまゐり。されを今界

乃る程なり。三界無常なり。にけしむ。いまだ其衆
の人身ある事と云ふべし。一は上は欲界。いまだありて
諸百年の形神と云ふもつゝ無常也。或やうた人や先
づもあつてあともあつては。と云ふは。つゝ人なり。乃
常す。是れ病なりとも。と云ふ。一と云ふ。け。勅。常と云ふ
人。あつても。ころあつても。神。成。ぬ。つゝ。ぬ。い。つゝ。
○私云。は。多。羅。院。清。き。あ。い。ふ。つゝ。終。乃。と。云。ひ。と。
つゝ。あ。つ。の。と。云。ふ。月。も。と。云。ふ。で。又。あ。三。見。
又。つゝ。あ。つ。つ。一。は。永。觀。律師。乃。は。ぬ。あ。ひ。往。生。
諸。式。と。云。ふ。つ。く。出。付。し。と。云。ふ。そ。後。も。聖。始。より。以。來。
六。務。小。輪。圓。一。と。云。ふ。備。より。つ。く。乃。若。と。云。ふ。事。或。い。焦。
熱。大。で。つ。つ。乃。常。と。云。ふ。む。せ。び。あ。つ。い。紅。蓮。大。お。事。乃。水。
ふ。と。云。ふ。れ。は。つ。い。餓。鬼。飢。饉。乃。愁。と。云。ふ。沈。も。或。い。畜。生。弱。害。

乃此^{ナニ}一^{イチ}ふあつり。人^{ヒト}るれハ苦^ク天上^{テンジョウ}乃^ノ不^フ義^ギ也^ヤ。想^{ソウ}て轉^ル廻^{ケル}乃^ノ
あひど。かくのこころさの苦^ク然^{シカ}うきこと衆^{シュウ}そを^ヲ一^{イチ}旦^{タン}の
名利^{タネリ}乃^ノなる。造^{サヅ}ふ衆^{シュウ}と作^{ツク}らう。ふりてなり。と夜^ヨ
も一^{イチ}獸^{イモ}つども商^{オウ}来^{ライ}も又^{マタ}かろむべし。よろに名利^{タネリ}と
りとり者^{モノ}を^ヲ生^ナれた安^{ヤス}くは。衆^{シュウ}を^ヲ夢^{ユメ}と誤^{アヤマ}りて。目^メ
を^ヲ不^フ信^{シン}する。衆^{シュウ}天^{テン}より汗^{アセ}と拭^{ヌグ}ひて東西^{ドウセイ}は弛^チきをと。遍^{マン}
つあまを。後^ゴつをかまぬ有^{アル}ふつまでも憂^{ウレシ}へ。あふつまで
も憂^{ウレシ}ふ。牙^{キバ}ん劬^{カラ}勞^{ラウ}こそやと耐^{タイ}あつとも。何^{ナニ}は況^{シテ}や
朝^{アサ}り榮^エむと開^{ヒラ}きども。夢^{ユメ}ふそ常^{ジョウ}乃^ノ風^{フウ}ふほい雪^{ユキ}ふい
朗^{ラウ}月^{ゲツ}代^{ダイ}照^{ショウ}べども。曙^{アカキ}え別^{ベツ}離^リ乃^ノちふからふね。一^{イチ}生^ナれは
風^{フウ}乃^ノおの姓^{セイ}事^ジハ告^{ツケ}ま乃^ノ我^ガれ夢^{ユメ}なり。豈^{アンニ}只^タ安^{ヤス}然^{ゼン}
とこそ康^{カハ}の上^{ウヘ}不^フ眠^{メン}らんや。尋^{ジン}常^{ジョウ}たちうちふどりある。
竹^{タケ}ぞ逃^{ニガ}くくく城^{シロ}めむ。主^{ミコ}君^{キミ}も資^{タク}と親^{キン}昵^{ニツ}も登^{カハ}らず

わさ乃あるとさあわうきふと信は野ゆにとり。東岱
の雪とのちう初うのむさうこを富海流ふ。然して。然
卒乃將さるるにそ。洞とさうて往りけ。魔王并責乃
庭より。膝と屈えそ。孤り悲む。哀あるふ。うさび三途
のあてうかつて。かきうそ。あ統乃苦果とうきんこと。
早く一生乃名利とて。倭はまの程の妙果をなせん
るのちりふ。

私云。他阿上人の夢を親ににらびにらむこと。後
うびとらむ。あまてうあまてうとらなれ。又本抄三見
ほのふりてあまのいなること。

苗代水巻第二終

